

指導観、教材観、教材分析シート

5年 組 授業者

内容項目	D 生命の尊さ	主題名	生きているからこそ
内容項目指導の観点	生命が多く生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。		

①授業者の価値観 ※ねらいとする道徳的価値（道徳の内容）について、学習指導要領に基づき明確な考えをもつ。

授業者が考える

生命の尊さ

とは？※この1年間でこの学級の子もたちに育てたいこと

人間の死の重さ、限りある生命を懸命に生きることの尊さを感じられるようにしたい。

②児童観 ※授業者の明確な価値観に基づくこれまでの指導と子どもの学び、よさや課題を明確にし、本時の方向性を示す。

本時に至るまでの

D 生命の尊さ

に関する

5年3組

の子どもの道徳性の実態

よさ	理科において、動物（昆虫・魚類）や植物の生命の有限性を感じ、生命の尊さを感じ得ているようになってきている。
課題	生命は有限であると動物では分かっており、一生懸命生きようとする意欲はあるが、生命の有限性（自分の死について）を自分事として捉えるまでには至っていない。

実態から求められること(ねらい) = ここが授業の中心 育てたいのは、**判断力**、心情、意欲と態度

生命のもつ尊さや、生命の有限性を自分事として捉え、限りある生命を懸命に生きることの尊さに気づけるようにしたい。

③教材観 ※授業者の明確な価値観、本時の方向性を基に、教材の活用の仕方を明らかに、教材は活用するもの

本時で扱う教材	くまのあたりまえ
実態から教材のどこを中心に考えさせるのか。	児童を子グマに自我関与させて、限りある生命を懸命に生きることの尊さについて考えさせるために、クマのほうがいいと分かったときの思いを自分事として考える 実態からどのように教材を活用するか。 本時は、 <b>補充</b> ・ <b>深化</b> ・ <b>統合</b> をねらう。

④教材分析表 ※中心発問から前後の発問を考える

**価値理解**：人間としてよりよく生きる上で大切なことであることを理解すること。**人間理解**：道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること。

**他者理解**：道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること。

本時の学習課題	限りある生命をどのようにして生きていくか考える。
---------	--------------------------

中心発問	意図(他、人、 <b>価</b> 理解)
死なない生き方（石の生き方）ではなく、生きる生き方（クマの生き方）を選んだときの子グマの思いを考えよう。	死なない生き方ではなく、生きる生き方を選んだ子グマに自我関与させ、限りある生命を懸命に生きることの尊さについて考えさせ価値理解を深める。

発問	意図(他、 <b>人</b> 、 <b>価</b> 理解)	発問	意図(他、 <b>人</b> 、 <b>価</b> 理解)
子グマが死んだおすグマのことを忘れられないのはどうしてでしょう。	命には限りがあることに気付いたときの思いを、子グマに自我関与して考えさせ人間理解を深める。	子グマが「ほんとうに石になっちゃうかも」となったとき、どんなことを思ったのでしょうか。	死なない生き方に共感させ、死ぬ生き方と対比的に考えることで「生き方」についての価値理解を深める。

指導方法は **自我関与中心** 問題解決的 体験的

指導の工夫 板書の見やすさ 問い返し